



毎年、薩摩川内市で合宿を行っていますが、バレーボールという競技をする上で、環境がとても良いですね。総合運動公園総合体育館(サンアリーナせんだい)のコート数は、メインアリーナで4面、サブアリーナで2面。練習する上では、サブアリーナでも十分に

す。また、肉や魚などが新鮮で食事がおいしいですし、練習で疲労した選手たちを考えた場合、近くに温泉があるというのも良いですね。必要なものが全てそろっているのも、合宿にも最適な場所だと考えています。平成24年11月に体育館に隣接した合宿施設ができたことは、現場を指導する者としては最高です。この施設ができたことにより、移動に時間を割かれることなく効率よく練習できるようになったと感じています。女子バレーボールの選手は個人練習が多いので、抜群にいい環境です。合宿中は、オンとオフの切り替えがうまくいかないと、合宿自体も良い方向に向かっていきません。そのような意味でもこの合宿所ができたことにより、練習に集中することができ、選手もいきいきとやりやすい環境になりました。これ以上完

壁なものはないのではと思うほどですね。昨年、薩摩川内市スポーツ大使を受けましたが、市には以前からお世話になっていましたし、スポーツ大使として、バレーボールを通していろいろな方に施設の素晴らしさを伝えていきたいと考えています。バレーボール以外の競技団体にも紹介し、いろいろなスポーツ団体が来て施設を使っていたら、環境の良さを納得いただけるはずですね。チームジャパンとして競技間の横のつながりもありますので、お互いチームジャパンとして良い環境であることを推薦していきます。合宿の際に、市内の子どもたちを対象にバレー教室などを開催しています。子どもたちはおとなしいですが、とても純粋だと感じます。我々も子どもたちに少しでも夢や希望を

与えることができたらと考えています。できるだけ我々の練習や試合を見に来てほしいです。全日本女子バレーボールチームのこれからの展望としては、まず今年9月にイタリアで開催される世界選手権で良い成績をとりたいですね。来年日本で開催されるワールドカップの1位または2位になるとリオデジャネイロ五輪の出場権が獲得できるので、ワールドカップでトップのチームに入場できるようにしたい。そして、最終的には2016年のリオデジャネイロ五輪で前回のロンドン五輪で獲得した銅以上のメダルを目指し、これからもチャレンジし続けていきたいです。



眞鍋 政義 (まなべ・まさよし)

1963年、兵庫県生まれ。中学校からバレーを始め、大阪商業大学高校で全国総体優勝を経験。大阪商業大学4年時に全日本代表に初選出され、85年のワールドカップに出場。86年、新日鉄入り。88年ソウル五輪出場、イタリアへの移籍経験もある。2005年に現役引退後、久光製薬(女子)の監督を経て、09年全日本代表監督に就任。ロンドン五輪では28年ぶりの銅メダルを獲得した。

インタビュー

**環境の素晴らしさを
他の競技の方にも伝えたい**

薩摩川内市スポーツ大使
全日本女子バレーボールチーム
眞鍋 政義 監督

薩摩川内市総合運動公園は、スポーツ・レクリエーションの中心拠点として、市民の体力の向上、健康の増進、文化の向上に資する目的で整備された施設です。利用者は昨年一年間で38万人を超えています。平成25年3月には、総合体育館が日本オリンピック委員会よりバレーボール競技強化センターに認定されました。



これまで、市を挙げてスポーツ合宿誘致に取り組み、全国からプロ、社会人、学生チームなどが利用され、高い評価を得てきました。全日本女子バレーボールチームの眞鍋監督をはじめ、多くの関係者からアドバイスを頂きながら、さらなる利活用の促進とスポーツ合宿誘致の推進を図り、市民のスポーツへの関心を高め、本市の活性化に資することを目的に、総合運動公園内に平成24年11月にスポーツ交流研修センター(合宿施設)が供用開始しました。当施設は、ロンドン

オリンピックで銅メダルを獲得した全日本女子バレーボールチームをはじめ、全日本男子バレーボールチーム、愛知製鋼陸上競技部、早稲田大学競走部なども利用されています。合宿の際には、市民に対して公開練習や市内の学生や指導者にスポーツ教室を開催し、多くの見学者や参加者が訪れています。その他、市内のホテルなどを利用して、千葉ロッテマリーンズや韓国プロ野球SKワイパース、セルビア女子バレーボールチーム、大学野球部なども合宿を行いました。スポーツを通じたまちづくりを展開するには、スポーツ人口の底辺拡大が重要であり、市体育協会の各加盟団体においても、組織的なスポーツ種目の普及・指導が不可欠となってきました。その解決策の1つとして、総合運動公園を核としたスポーツ合宿誘致事業を推進しています。子どもたちが一流選手の練習を見たり触れ合ったりすることは、夢を持ち、それに向かって努力することの大切さを感じる機会となるのではないのでしょうか。このことがスポー



愛知製鋼陸上競技部による中・高校生への陸上教室

ツの普及・底辺拡大につながると考えます。一方で、スポーツ合宿誘致の推進は、交流人口の拡大や滞在費などによる地域経済の活性化、合宿を通じた情報発信などの効果も期待できます。スポーツ合宿誘致を推進するための方策として、本市のスポーツ大使などによる紹介や、市体育協会との誘致活動、ホテル・旅館組合と県のスポーツ合宿セミナーへの参加などを通じて、競技種目の幅を広げ、積極的に活動を展開していきます。

**「また薩摩川内市に来たい」と
言ってもらいたい**
— 市民スポーツ課 —



読売ジャイアンツ 投手 杉内俊哉氏



愛知製鋼陸上競技部 監督 児玉泰介氏



北海道日本ハムファイターズ 投手 木佐貫洋氏



元ウエイトリフティング選手(アトランタ・シドニー五輪出場) 池畑大氏



日本バレーボール協会強化委員会副委員長 植田辰哉氏



全日本女子バレーボール協会 監督 眞鍋政義氏

薩摩川内市スポーツ大使